

議会活動の他にも、毎日元気に動き回っています！



各方面からの相談に対する取り組み

毎日のように様々な相談をお受けします。そのひとつひとつを相談者と一緒になって対処していくことが、私にとって貴重な経験となっています。積み重ねられていくこの経験を糧にして、今後の取り組みへ活かしていきたいと思っています。



地域一体となった自治活動を牽引

校区では、町内役員や防犯副会長としてのお役目を頂いております。地域活動への積極的な取り組みは、多くの学びや気づきを与えてくれます。今後も自発的に、自分たちの街をより良くする自治活動に邁進し、若い世代として地域を支えていきます。



「青少年育成」への継続した取り組み

教育とは、広義に「子どもたちの将来の活躍を応援すること」だと、私はシンプルに考えています。今後も、彼らにとっての多様な体験の場を創出し、優しく元気な「心」を育ていけるよう取り組みを続けていきます。子どもたちの笑顔も、エネルギーの源です。



地域でのお困りごとなど、遠慮なくご相談ください！
これまでのご相談事例、その一部をご紹介します。



不登校への支援についての相談／通学道路の安全確保について／不審者発生に伴う公園内の街灯新設／都市計画道路の用地買収について／地域公園への集会所の設置について／狭い道路拡幅への用地寄付について／小規模保育所の開設について／地域包括ケアの医療体制の整備について／校区「学び舎事業」の運営について／市長への表敬訪問について／地域と大学・学校法人との防災協定について／教育図書製作と学校への配置について／防犯上の安全確保のための公園植樹の伐採／学校施設への消防設備の新設／雨水路での蚊の大量発生問題／建築基準法違反に伴う施設移転について／産廃工場焼却炉からの悪臭問題／少人数学級の充実への相談／LGBTへの支援について／危険道路への横断歩道や表示物の設置／公園の遊具や健康器具の改修／公園での落ち葉対策／小学校のグラウンドや体育館の利用／障がい児童生徒のイベント開催／介護職員の募集難や人手不足問題／JR博多駅前広場の市保有地の利用／介護施設開設時の相談／騒音や臭気などによる近隣住民トラブル／市街化調整区域の要件緩和／名誉領事就任への市からの推薦状取り付け／医療法人の承継問題／地域公園の再整備／民間学童保育の運営について／健康ロードの歩道整備／粗大ごみ等の不法投棄問題／独居高齢者の見守りオンラインシステムの構築／ベトナムの小学生との交流事業／ボートレース場へのイベント提案について／ペロタクシーの普及支援／介護施設と地域との連携／建築基準法に遵守した防火設備の設置／家庭向け初期対応型スプリンクラーの普及／スタートアップカフェのパートナー企業登録／市道に隣接する施設のセットバック／私道の市への寄付／発達障がい児童生徒への医療支援／カーブミラーや電柱の移設／精神保健福祉法「23条通報」の適用／空港滑走路増設に伴う用地移転交渉／水道メーター等の宅内公共設備の破損／ものづくり産業への就労定着支援／こども食堂の取り組み・開設支援／若年ひきこもり支援施策について／発達障害児への切れ目のない支援体制／飼い犬の管理・保護について／医療行為が必要な子どもへの保育体制／バス停の新設・移設・・・など



プロフィール

福岡市議会議員 新村 まさる

- 【経歴】
- 福岡市立柏原小学校／柏原中学校 卒業
 - 福岡大学附属大濠高校 卒業
 - 早稲田大学／早稲田大学大学院 卒業
 - アサヒビール株式会社 入社・退社
 - 国会議員事務所（公設秘書） 入所・退所
 - スペクトラムアンドパートナーズ株式会社 入社
 - NPO法人 次世代のチカラFUKUOKA 設立
 - 福岡市議会議員選挙（2015年） 当選

- 【現在の活動】
- NPO法人 次世代のチカラFUKUOKA／理事長
 - スペクトラムアンドパートナーズ株式会社／専務取締役
 - 福岡大学附属大濠高校同窓会／常務理事・相談役
 - 福岡リパティライオンズクラブ／理事
 - 校区／防犯副会長・町内役員

まさるの議員レシピ



息子には栄養満点のお弁当を持たせています！

- この日のメニュー
- ＊おかかとチーズの丸おにぎり
 - ＊チクワの胡瓜詰め
 - ＊茄子とパプリカの揚げ浸し
 - ＊チーズ入りウインナー串
 - ＊甘めの卵焼き
 - ＊福岡産ミニトマト
 - ＊牛肉のしぐれ煮
 - ＊きぬさやの湯上げ
 - ＊チンゲン菜と豚肉の回鍋肉仕立て

幼稚園のお弁当

新村まさる市政事務所

〒815-0075 福岡市南区長丘2-24-3武末第一ビル1F
TEL:092-408-6375 FAX:092-408-6376
✉ info@niimuramasaru.com



〔南区〕福岡市議会議員 無所属

にい むら

新村まさる 市政報告

Vol.2

FUKUOKA!

福岡市議会議員の役務を拝任してから、早いもので2年が経ちます。

この間、子どもたちの「教育」の現場や「保育」の課題を中心に、議会では鋭意取り組んで参りました。また、地域をはじめとした各方面から、毎日のご相談を頂くことで、貴重な経験を積み重ねてくることができました。さらには、皆さまからのお支えのお陰で、ライフワークとしております「青少年育成」の分野で、独自の取り組みも続けることができております。日々のご指導とご協力に、深く御礼を申し上げます。

先日、高校の後輩たちの応援に、甲子園まで足を運ぶ機会がありました。彼らの「元気で澁刺とした」頑張りに負けないよう、議会活動に、

地域活動に、社会貢献活動に、皆さまのお役に立つべく誠心誠意努めて参ります。どうか今後とも、変わらずのご指導を賜りますようお願い申し上げます。お時間ございますときに、「市政報告」をご一読頂けますと幸甚です。

平成29年 春

福岡市議会議員

にい むら まさる
新村 優

この1年も、様々な課題を取り上げ、議会質問に取り組んできました！

平成28年3月定例会・議会質問

テーマ 「留守家庭子ども会」への入会児童数、これまでの推移と今後の見通しについて

平成28年3月予算特別委員会・総会質疑

テーマ 小学校の「留守家庭子ども会」、狭あい化施設への今後の対応について

平成28年6月定例会・議会質問

テーマ 本市の国際交流事業について

- ◎姉妹都市または分野型MOUの在り方について
- ◎中長期のグランドビジョンの具体性について
- ◎ASEAN諸国または各都市との交流・連携について

平成28年9月定例会・議会質問

テーマ フリースクール等民間施設と学校・教育関係機関との今後の連携に向けて

平成28年10月決算特別委員会・総会質疑

テーマ ◎不登校対応教員の配置拡充に向けて ◎適応指導教室の充実・拡充に向けて

平成28年12月定例会・議会質問

テーマ 都心部建築物の建替え促進に向けた容積率の規制緩和施策について

- ◎天神BBBにおける容積率緩和の効果
- ◎都心部機能更新型容積率特例制度の取り組み実績
- ◎天神ビッグバン施策が市街地に与える将来の影響

平成29年3月定例会・議会質問

テーマ 医療的ケアを必要とする子どもたち、彼らにとっての「保育の場」の現状について

平成29年3月予算特別委員会・総会質疑

テーマ 医療的ケア児を見守る保育体制、今後の整備の必要性について



特集1 医療的ケアを必要とする子どもたち。

福岡市には、保育の場がゼロ!?

新生児医療の発達等に伴って、日常的に「医療的ケア」を必要とする子どもたちが増えています。日常的な医療的ケアには、経管栄養（鼻からの栄養注入・胃ろうなど）やたんの吸引、酸素吸入などがあり、それらを必要とする児童数は全国的に、**平成23年の19,303人から平成25年には25,175人**と、わずか2年のうちに3割以上増加しているということです。

（文科省調査／全国医療的ケア児者支援協議会資料参照）

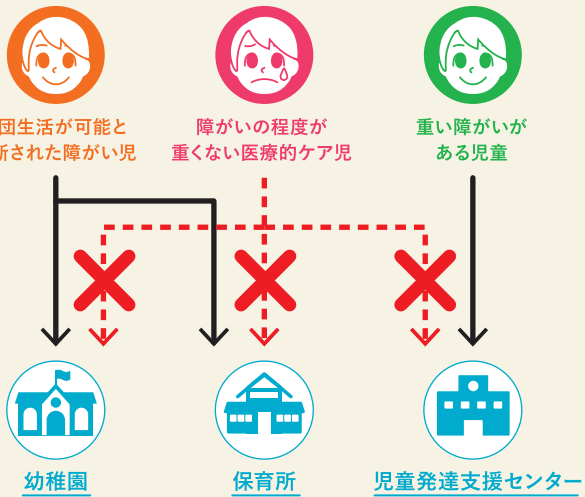


この問題に、取り組むことになったきっかけは、医療的ケア児を育てるお母さんからの相談でした。



日常生活において、喉の切開部分からの喀痰吸引という医療的ケアを必要とする2歳の女の子、Aちゃん。そのお母さんは、育休期間を終えてAちゃんが1歳になる頃には、復職することを望んでいました。保育所への通園を申し込み、受入れ実現に向けて、保育所や行政との話し合いをその間、何度も続けてきました。しかし、状況は一向に進展しません。医療的ケアの処置は誰が行うのか、集団保育で安全が確保できるのか、このように様々な課題が立ちはだかり、お母さんのもとには福岡市から「保留通知」が届くばかり。それならばと、障がい児童を多く受け入れている市の施設「児童発達支援センター」へ通園出来ないかと相談します。しかし、Aちゃんは日常的な医療的ケアが必要であるという以外には特段の障がいは無く、障がい等級の判定も軽いものとなります。結果、「児童発達支援センター」の受入れにおける優先度は低くなり、こちらも通園が実現しません。お母さんは、人一倍厳しい保育と看護が続く家庭環境下、Aちゃんを預かってもらえる場がそもそも無いという厳しい現実を突き付けられ、将来を悲観する毎日が続きます…

本市には216の認可保育所があります。医療的ケア児を受け入れた事例は、この13年間でわずか4例。しかも、その4例は、保護者が自ら園内で医療行為を行うことで、特例として入所が認められたものでした。実質的に受入れを可能とした事例は、これまでにありません。



他の政令市ではどうしてる?

民間保育所に複数の看護師を配置し、医療的ケア児の受け入れを可能としている政令市

5都市 仙台市、横浜市、名古屋市、大阪市、堺市

複数の看護師を配置し、公立の保育所で医療的ケア児を受け入れている政令市

9都市 仙台市、千葉市、川崎市、横浜市、相模原市、新潟市、大阪市、堺市、広島市

医療的ケア児の「保育の場」が必要なる理由って、何だろう?!

- ①対象児童の成長・発達
- ②保護者の切実な就労希望
- ③家族へのレスパイトケア



議会での行政答弁まとめ

- Q 本市において、医療的ケア児に関する速やかな実態調査を求める！
A 関係機関等を通じ、医療的ケア児の実態の把握に努めていく。
- Q 医療的ケア児の保育の場がこれまで無かったという現状について、本市の改善すべき課題として認識しているか？
A 課題と認識し、安全に医療的ケア児を預かることのできる体制づくりについて、検討を進めていく必要があると考える。
- Q 他都市同様に、保育所への看護師の個別配置など、医療的ケア児を保育する環境づくりを支援していくべきと考えるが、市の今後の姿勢を問う！
A 保育所への看護師の複数配置に向けた制度の検討を進めていく。



ココが、ポイント！

医療的ケア児を保育所で実際に受け入れる際、運営側にとっては、医療行為のみならず、日常の安全配慮の徹底や緊急事態への対応など、これまでとは劇的に異なる環境へ対応することが求められることになります。その対応を、すぐさま民間の保育所に求めてしまえば、現場に混乱が生じてしまいます。受入れ体制の整備については、まずは市立（公立）の保育所から先行して実施することが望ましいでしょう。そこで、安全な保育現場の確保のための体制づくりや、そのノウハウと実績を積み上げていくことが今後求められます！

ココも、ポイント！

重い障がいがある児童（医療的ケア児を含む）の多くは、市の「児童発達支援センター」を利用しています。しかし、ここでは、毎日の通園が叶わなかったり、保護者の付添いが終日求められることが多いため、働くこともできなければ、心身を休める時間も持てません。障がいがある児童を育てるお母さんたちは、日中・夜間を問わず看護や保育に付きっきりのため、その睡眠時間が圧倒的に少ないというデータが示されています。集団保育がどうしても叶わない、医療的ケア児や重い障がいがある児童を預かることのできる安全管理の整った「小規模保育」の体制も、今後新たに求められます！

特集2 学校に通えず悩んでいる子どもたちと、その保護者。～将来を応援する、寄り添い支援の取組み～



「不登校」と「長期欠席」、どこが違うの!?

「本市の小・中学校では、様々な取組みの効果により、**不登校**の児童生徒数は減少している」。これは、教育委員会の評価・見解です。実はこの「**不登校**」、年間30日以上欠席をする「**長期欠席**」児童生徒を分類する項目の1つに過ぎません。その欠席の理由や特徴の違いによって、下記4分類のどの項目に該当するか判断されることとなります。

「長期欠席」4分類の定義とそれぞれの人数（小・中学校／福岡市）			
分類	平成17年度	平成27年度	定義
①不登校	1,367人	→ 896人	「病気」「親の経済的理由」以外の理由で、欠席の主たる要因が明確である場合。
②病欠	477人	→ 675人	入院や通院などを理由とする欠席の場合。
③経済的理由	0人	→ 0人	親または家庭の経済的な理由による場合。
④その他	203人	→ 996人	欠席の主たる要因が複雑で、その理由を1つに絞れない場合。また、家庭の事情を伴う欠席の場合。

長期欠席児童生徒（全体）**2,047人→2,567人**（約1.3倍に増加!）

ここで注目すべきは、平成27年度、本市の小・中学校においては、**「長期欠席」のうち「不登校」**に分類される子どもたちは、わずか1/3程度であるということです。家庭をはじめとした子どもたちを取り巻く環境が複雑化する中で、その欠席理由も複雑化しています。それに関わらず、教育基本計画やその他の公表データで取り上げられる指標は、この間ずっと「**不登校**」項目のみでした。この「**不登校**」のみを注視する教育委員会の姿勢は、課題の本質から目をそらしているようにも感じてしまいます。

ココが、ポイント!



現状を正確に把握したり、課題を検証していく上で、判断材料となる数値指標の設定は、極めて大切な役割を担います。学校に行けず悩んでいる子どもたちやその保護者が本当に必要とする支援・施策を打ち出していくためには、「**長期欠席**」の全体値や、「**その他**」「**病欠**」などの各項目も指標として定めて、現状や課題を正確に把握・補足していこうとする姿勢こそが、当局には何よりも求められるべきです！

統計から見る、わたしたちの街の特徴は？ 南区の小学校「25校区」と比べてみました！ ※他の小学校区につきましては、今後 随時取り上げていく予定です。

西花畑小校区

人口:12,096人 世帯数:5,236世帯
小学生児童数:609人
福岡市議選（2015年）の投票率 42.7%（南区平均41.2%）



- ◎昭和44年に、**花畑校区**からの分離によってできた校区
- ◎区内で**2番目**に校区面積が広く、大規模公園が校区に2つも存在する！
- ◎市長と住民との和歌のやり取りによって保存されることとなった「**松原桜**」が有名！
- ◎人口に占める65歳以上の割合が**25.3%**（南区平均:21.2%）
- ◎人口千人当たりの出生数が**6.7人**（南区平均:10.0人）
- ◎一戸建ての割合が全体の**52.5%**と高い（南区平均:28.2%）
- ◎刑法犯罪件数が**200件**（H17）から**97件**（H26）へと大幅に減少！

塩原小校区

人口:13,279人 世帯数:7,134世帯
小学生児童数:616人
福岡市議選（2015年）の投票率 36.2%（南区平均41.2%）



- ◎区役所・警察署・消防署・市民センターなどの**公共施設**が一斉集積する校区
- ◎その昔、塩水を煮た場所だったことが、「**塩原**」の地名の由来！（潮煮塚）
- ◎人口が過去5年で**29%**も増加、その増加率は区内トップ！（南区平均:0.8%増加）
- ◎生産年齢人口の割合が**70.4%**と高い（南区平均:65.0%）
- ◎単身世帯が多く、65歳以上の人口割合が**15.1%**と低い（南区平均:21.2%）
- ◎共同住宅世帯が**91.0%**を占め、現在の住民の**52.5%**が5年前には校区外に居住！
- ◎人口千人あたりの刑法犯罪件数が、**24.5件**（H17）から**16.3件**（H26）に減少！

※上記データは、平成26年9月末「住民基本台帳登録データ」及び平成27年度「国勢調査」資料などから引用しております。